

【ネットカンファレンス プレゼンテーション資料】
2016年度 第1四半期決算

2016年8月1日
住友商事株式会社

将来情報に関するご注意

本資料には、当社の中期経営計画等についての様々な経営目標及びその他の将来予測が開示されています。これらは、当社の経営陣が中期経営計画を成功裡に実践することにより達成することを目指していく目標であります。これらの経営目標及びその他の将来予測は、将来の事象についての現時点における仮定及び予想並びに当社が現時点で入手している情報に基づいているため、今後の四半期の状況等により変化を余儀なくされるものであり、これらの目標や予想の達成及び将来の業績を保証するものではありません。したがって、これらの情報に全面的に依拠されることは控えられ、また、当社がこれらの情報を逐次改訂する義務を負うものではないことをご認識いただくようお願い申し上げます。

1. 経営成績

BE THE BEST. BE THE ONE

| (単位:億円) | 2015年度 第1四半期 ① | 2016年度 第1四半期 ② | 前年同期比 ②-① | 2016年度 通期見通し (2016年5月公表) ③ | 進捗率 ②/③ |
|--------------------------|----------------------|----------------------|---------------|-------------------------------------|------------|
| 当期利益 | 820 | 227 | △593 | 1,300 | 17% |
| 基礎収益^{*1} | 677 | 411 | △266 | 1,500 | 27% |
| うち、資源ビジネス ^{*2} | 50 | △60 | △110 | △400 | - |
| うち、鋼管事業 ^{*2} | 37 | △21 | △57 | 0 | - |
| うち、その他非資源 | 590 | 491 | △99 | 2,000 | 25% |
| | | | | 為替の影響 △100 | |
| 一過性損益 | 約 170 | 約 △140 | 約 △310 | 約 △200^{*3} | |

| (参考) 主要指標 | 2015年度 | | 2016年度 | |
|----------------------|-------------|-------------|-------------|-----------|
| | 第1四半期 実績 | 第1四半期 実績 | 第1四半期 実績 | 通期 見通し |
| 為替 (YEN/US\$) | 121.43 | 108.16 | 110.00 | 110.00 |
| 金利 LIBOR 6M(YEN) | 0.14% | 0.00% | 0.00% | 0.00% |
| 金利 LIBOR 6M(US\$) | 0.42% | 0.92% | 1.00% | 1.00% |
| 銅※ (US\$/MT) | 5,815 | 4,668 | 4,589 | 4,589 |
| 亜鉛 (US\$/MT) | 2,193 | 1,915 | 1,800 | 1,800 |
| コークス (US\$/b) | 6.51 | 4.00 | 3.92 | 3.92 |
| 鉄鉱石※ (US\$/MT) | 62 | 48 | 50 | 50 |
| 燃料炭 (US\$/MT) | 110 | 84 | 80 | 80 |
| 原油 Brent※ (US\$/bbl) | 54 | 34 | 48 | 48 |
| 原油 WTI (US\$/bbl) | 58 | 46 | 46 | 46 |

* ※印の商品は1-3月(通期見通し、1-12月)価格を記載。その他の商品は4-6月(通期見通し、4-3月)価格を記載。
* 原料炭…強粘結炭(市場情報に基づく一般的な取引価格)

〈2016年度第1四半期実績(前年同期比)〉

- 資源ビジネス・鋼管事業：✓ 資源価格下落の影響により減益
- その他非資源：✓ 自動車販売事業 減益(新興国市場低迷)
✓ 船舶事業 減益(海運市況低迷)
✓ メディア・生活関連 国内主要事業会社 堅調
- 一過性損益：✓ (当期) ポルビア銀・亜鉛・鉛事業 税引当^{*4}等あり
✓ (前期) 資産入替に伴うバリュー実現 等あり

〈2016年度通期見通し〉

- 資源ビジネス：✓ 資源価格は期初想定を上回り推移
- 鋼管事業：✓ 厳しい事業環境が継続も下期回復を見込む
- その他非資源：✓ リース事業、海外発電事業、メディア・生活関連等のコアビジネスは堅調に推移
✓ 下期に新規大型EPC*案件建設進捗を見込む
✓ 海運市況低迷、新興国市場低迷の影響あり

* EPC… Engineering, Procurement & Construction

*1 基礎収益 = (売上総利益 + 販売費及び一般管理費(除く貸倒引当金繰入額) + 利息収支 + 受取配当金) × (1 - 税率) + 持分法による投資損益

*2 海外現地法人・海外支店セグメントの業績を、資源ビジネス・鋼管事業の業績に含めて算出した参考値

*3 2016年度通期見通しにおける一過性損益 約△200億円は、体質改善コスト(戦略的に資産入替を執行する為の費用)を全社で予算化したもの

*4 ポルビア銀・亜鉛・鉛事業において、源泉税に係る税引当△108億円を計上

◆ Sumitomo Corporation

Copyright© Sumitomo Corporation All Rights Reserved.

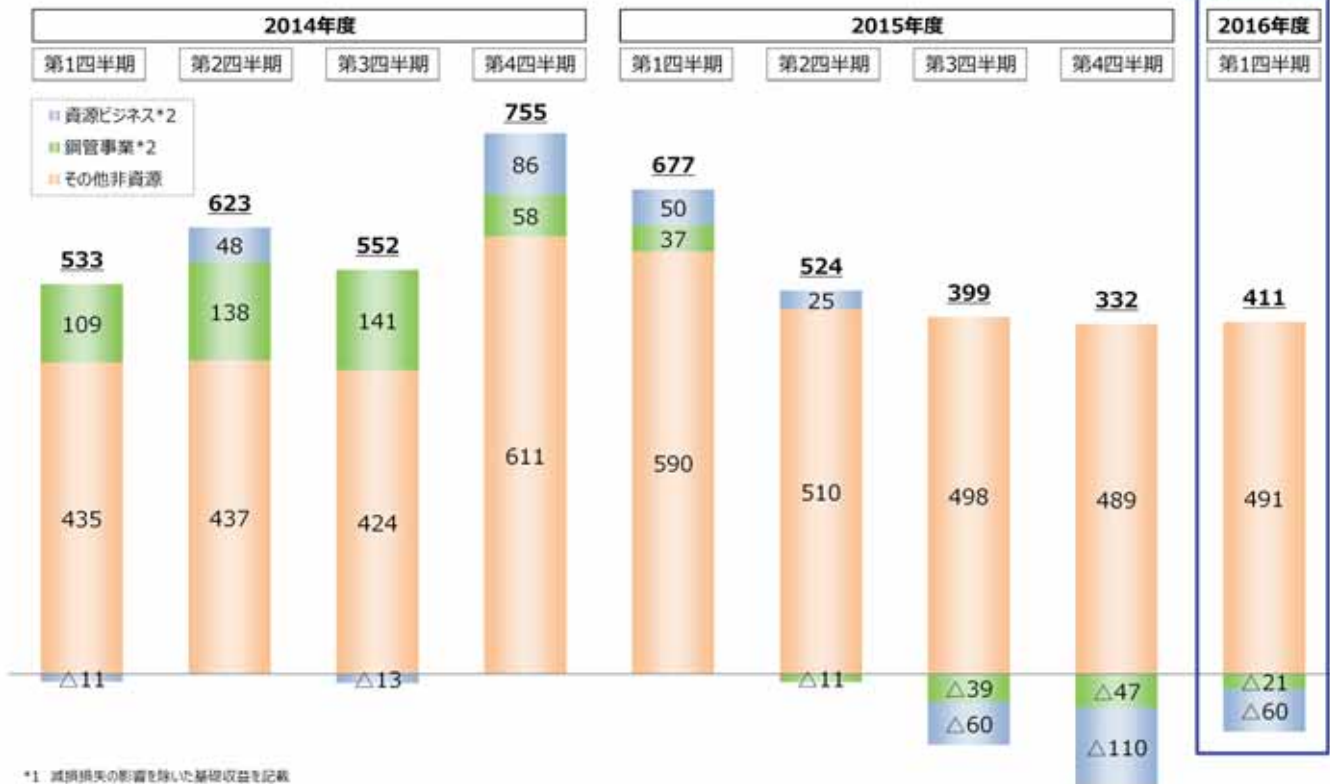
- 当第1四半期当期利益：227億円（前年同期比：△593億円）
- 基礎収益：411億円（前年同期比：△266億円）
 - ✓ **資源ビジネス及び鋼管事業**
 - ・資源価格下落の影響
 - ✓ **その他非資源ビジネス**
 - ・メディア・生活関連の国内主要事業会社等は堅調に推移
 - ・新興国における市場環境の悪化や、海運市況の低迷により自動車販売事業及び船舶事業が低調に推移
 - ・前年同期、住宅分譲事業において物件引渡しが集中したことの反動 等
- 一過性損益：前年同期比 約△310億円
 - ✓ 当期(約△140億円)：ポルビア銀・亜鉛・鉛事業税引当 108億円 等
 - ✓ 前年同期(約+170億円)：資産入替に伴うバリュー実現 等
- 2016年度年間見通しに対する進捗率
 - ✓ 当期利益見通し1,300億円に対し 17%
 - ✓ 基礎収益見通し1,500億円に対し 27%

〈2016年度年間見通しについては、後述〉

2. 基礎収益*1 四半期推移

BE THE BEST. / BE THE ONE

(単位：億円)



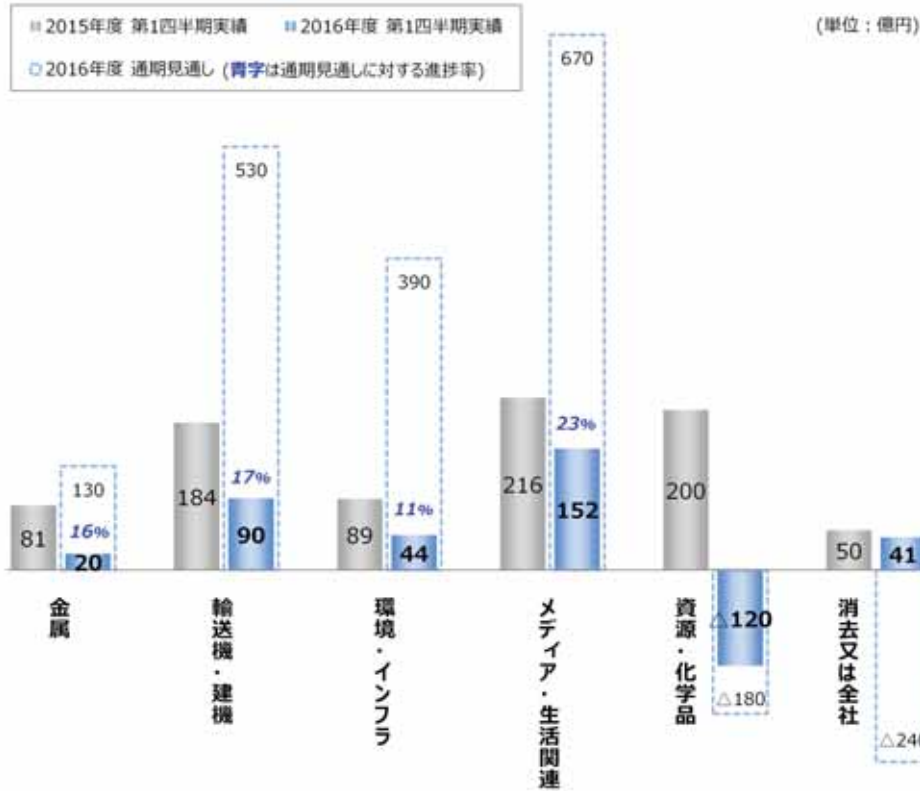
*1 減損損失の影響を除いた基礎収益を記載

*2 海外現地法人・海外支店セグメントの業績を、資源ビジネス・鋼管事業の業績に含めて算出した参考値

➤ その他非資源ビジネスの基礎収益(オレンジ色)

前年同期比減益となるものの、四半期毎のトレンドでは、2015年第2四半期以降、ほぼ同水準で安定して推移

3. セグメント別連結純損益(グローバルベース*)



- 〈セグメント別業績概要〉
 【2016年度第1四半期実績(前年同期比)】
- 金属
 - ✓ 北米鋼管事業 減益
 - ✓ 海外スチールサービスセンター事業 堅調
 - 輸送機・建機
 - ✓ 海運市況 低迷、新興国市場 低迷
 - ✓ リース事業 及び 米国建機レンタル事業 堅調
 - 環境・インフラ
 - ✓ 海外発電事業 堅調
 - ✓ 前年同期 再生可能エネルギー分野におけるバリュー実現あり
 - メディア・生活関連
 - ✓ 国内主要事業会社 堅調
 - ✓ 前年同期 資産入替に伴うバリュー実現あり
 - 資源・化学品
 - ✓ 資源価格下落の影響
 - ✓ 当期 一過性の税引当あり
 - ✓ 前年同期 事業再編益あり

* 海外現地法人・海外支店セグメントの業績を、各事業セグメントの業績に含めて算出した参考値

➤ 各セグメント別業績概要の詳細は、「IR補足資料」ご参照

※今期より、海外地域組織の業績を、各事業部門の業績に含めたグローバルベースで作成

4. キャッシュ・フロー／財政状態

● キャッシュ・フロー実績

| (単位：億円) | 2015年度 第1四半期 | 2016年度 第1四半期 |
|---------------------|--|----------------------------------|
| 営業活動 | +1,529 | +1,196 |
| 投資活動 | △460 | △490 |
| フリーキャッシュ・フロー | +1,069 | +707 |
| キャッシュ・イン | 基礎収益キャッシュ・フロー* 減価償却費 資産入替による回収 その他の資金移動 | +717 +285 約 +100 約 +200 |
| キャッシュ・アウト | 投資資金実行 | 約 △600 |

* 基礎収益キャッシュ・フロー = 基礎収益 - 持分法による投資損益 + 持分法投資先からの配当

- 〈2016年度第1四半期〉
- 基礎収益キャッシュ・フロー
 - ✓ J:COM¹⁾が着実にキャッシュを創出 (J:COM、三井住友ファイナンス&リースからの配当等)
 - 資産入替による回収
 - ✓ 国内不動産売却等
 - 投融資実行
 - ✓ 米国オフィスビル取得
 - ✓ 航空機エンジンリース資産積増等

(参考) BBBO2017^(*)1) キャッシュ・フロー計画進捗



(*)1) 当社は、2015年4月～2018年3月の3か年を対象とする現行の中期経営計画「Be the Best, Be the One 2017(BBBO2017)」において、3年合計で配当後フリーキャッシュ・フローを5,000億円確保し、回収した資金で有利子負債を返済する計画としております。

(*)2) 配当後フリーキャッシュ・フロー-累計実績のマイナス値を記載しております。

● 財政状態

| 2015年度末 総資産 7.8兆円 | | 2016年度第1四半期末 総資産 7.4兆円 | |
|----------------------|------------------|---------------------------|------------------|
| 流動資産 3.4兆円 | その他の負債 1.9兆円 | 流動資産 3.3兆円 | その他の負債 1.9兆円 |
| 非流動資産 4.4兆円 | 有利子負債 3.7兆円 | 非流動資産 4.2兆円 | 有利子負債 3.5兆円 |
| | 現預金Net後 2.8兆円 | | 現預金Net後 2.7兆円 |
| | 株主資本* 2.3兆円 | | 株主資本* 2.1兆円 |
| D/E Ratio(Net) : 1.2 | | D/E Ratio(Net) : 1.3 | |

* 株主資本…資本の内、「親会社の所有権に帰属する持分合計」

- 〈2016年度第1四半期増減〉
- 総資産 △3,686億円 (78,178億円→74,492億円)
 - ✓ 円高の影響による減少
 - ✓ 営業債権減少等
 - 株主資本 △1,861億円 (22,515億円→20,654億円)
 - ✓ 円高の影響による減少等

【キャッシュ・フロー実績】

- 当第1四半期フリーキャッシュ・フロー：707億円のキャッシュ・イン
 - ✓ J:COMなどの主要な持分法投資先からの配当を中心に、コアビジネスが着実にキャッシュを創出したことにより、基礎収益キャッシュ・フローは717億円のキャッシュ・イン
 - ✓ 米国におけるオフィスビルの取得や、航空機エンジンリース事業における資産積み増しなどの投融資実行に伴い、約600億円のキャッシュ・アウト

【財政状態】

- 総資産：7兆4,492億円
 - 円高の影響に加え、営業債権の減少などにより、前期末比△3,686億円
- 株主資本：2兆654億円
 - 主に円高の影響により、前期末比△1,861億円

1. 経営成績

| (単位:億円) | 2015年度 第1四半期 ① | 2016年度 第1四半期 ② | 前年同期比 ②-① | 2016年度 通期見通し (2016年5月公表) ③ | 進捗率 ②/③ |
|--------------------------|----------------------|----------------------|---------------|-------------------------------------|------------|
| 当期利益 | 820 | 227 | △593 | 1,300 | 17% |
| 基礎収益^{*1} | 677 | 411 | △266 | 1,500 | 27% |
| うち、資源ビジネス ^{*2} | 50 | △60 | △110 | △400 | - |
| うち、鋼管事業 ^{*2} | 37 | △21 | △57 | 0 | - |
| うち、その他非資源 | 590 | 491 | △99 | 2,000 | 25% |
| | | | | 為替の影響 △100 | |
| 一過性損益 | 約 170 | 約 △140 | 約 △310 | 約 △200 ^{*3} | |

| (参考) 主要指標 | 2015年度 | 2016年度 | |
|----------------------|-------------|-------------|-----------|
| | 第1四半期 実績 | 第1四半期 実績 | 通期 見通し |
| 為替 (YEN/US\$) | 121.43 | 108.16 | 110.00 |
| 金利 LIBOR 6M(YEN) | 0.14% | 0.00% | 0.00% |
| 金利 LIBOR 6M(US\$) | 0.42% | 0.92% | 1.00% |
| 銅※ (US\$/MT) | 5,815 | 4,668 | 4,589 |
| 亜鉛 (US\$/MT) | 2,193 | 1,915 | 1,800 |
| コークス (US\$/b) | 6.51 | 4.00 | 3.92 |
| 鉄鉱石※ (US\$/MT) | 62 | 48 | 50 |
| 燃料炭 (US\$/MT) | 110 | 84 | 80 |
| 原油 Brent※ (US\$/bbl) | 54 | 34 | 48 |
| 原油 WTI (US\$/bbl) | 58 | 46 | 46 |

* ※印の商品は1-3月(通期見通し、1-12月)価格を記載。その他の商品は4-6月(通期見通し、4-3月)価格を記載。
* 原料炭…強粘結炭(市場情報に基づく一般的な取引価格)

〈 2016年度第1四半期実績(前年同期比) 〉

- **資源ビジネス・鋼管事業** : ✓ 資源価格下落の影響により減益
- **その他非資源** : ✓ 自動車販売事業 減益(新興国市場低迷)
✓ 船舶事業 減益(海運市況低迷)
✓ メディア・生活関連 国内主要事業会社 堅調
- **一過性損益** : ✓ (当期) ボリビア銀・亜鉛・鉛事業 税引当^{*4}等あり
✓ (前期) 資産入替に伴うバリュエーション実現 等あり

〈 2016年度通期見通し 〉

- **資源ビジネス** : ✓ 資源価格は期初想定を上回り推移
- **鋼管事業** : ✓ 厳しい事業環境が継続も下期回復を見込む
- **その他非資源** : ✓ リース事業、海外発電事業、メディア・生活関連等のコアビジネスは堅調に推移
✓ 下期に新規大型EPC*案件建設進捗を見込む
✓ 海運市況低迷、新興国市場低迷の影響あり

* EPC… Engineering, Procurement & Construction

*1 基礎収益 = (売上総利益 + 販売費及び一般管理費(除く貸倒引当金繰入額) + 利息収支 + 受取配当金) × (1 - 税率) + 持分法による投資損益
*2 海外現地法人・海外支店セグメントの業績を、資源ビジネス・鋼管事業の業績に含めて算出した参考値
*3 2016年度通期見通しにおける一過性損益 約△200億円は、体質改善コスト(戦略的に資産入替を実施する為の費用)を全社で予算化したもの
*4 ボリビア銀・亜鉛・鉛事業において、源泉税に係る税引当△108億円を計上

- 通期見通し1,300億円：現時点で見直し作業を行っていない
- 今後の世界経済は、米国を中心に先進国は緩やかな成長が続くと見込まれるが、中国経済の減速や、新興国における政情不安、英国のEU離脱がもたらす不確実性の高まり等、先行きに対する不透明感が増している
- **ビジネスの見通し**
 - ✓ **資源ビジネス**
当第1四半期にボリビア銀・亜鉛・鉛事業にて一過性の税引当を計上したが、資源価格は期初の想定を上回って推移しており、期間損益は、期初の見通しに対して改善する見込み
 - ✓ **鋼管事業**
足元では原油価格及びリグカウントに底打ち感が見られ、年後半からの緩やかな収益回復を見込む
 - ✓ **その他非資源ビジネス**
全体として概ね計画通りに推移すると見込む
 - ・海運市況低迷の影響を受けた船舶事業や、新興国の市場環境悪化の影響を受けた自動車販売事業は低調に推移
 - ・リース事業や海外発電事業、メディア・生活関連などのコアビジネスは引き続き堅調に推移すると見込む
 - ・下期に、大型のインフラ工事案件での収益貢献を予定